

しゃらくかい 写楽同会

令和3年8月31日 68

<https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
投稿/投票宛先 ; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2021 Sharakukai

葉月兼題「帽子」出題：久芽

写真俳句



1 姿見にポーズを取りて夏帽子

季語：夏帽子（夏）

夏帽子を被り全身を鏡に写してみる。



2 麦藁帽ショットに揺れる羽飾り

季語：麦藁帽（夏）

2年ほど前のものでして、夏ゴルフに毎年行って
いました高原のゴルフ場での光景です。



3 五十年記憶の欠片（かけら）夏帽子

季語：夏帽子（夏）

日常の何でもないことを生涯憶えていることがある。



海暑なほ乗馬キャップの揺ぎなし

4 海暑なほ乗馬キャップの揺ぎなし

季語：海暑（じょくしょ、夏）

Tokyo 2020、イギリスのお家芸ドレッシング（馬場馬術）。テレビ画面の写真です。



5 店中央帽子売り場や夏来る

季語：夏来る（夏）

いつも洋服売り場の隅にあった帽子売り場が移動してました。



黙々と鎌サクサクと麦わら帽

6 黙々と鎌サクサクと麦わら帽

季語：麦わら帽（夏）

夏は草取りに追われてしまい畑仕事は大変。



炎昼の帽子まぶかに過ぎる君

7 炎昼の帽子まぶかに過ぎる君

季語：炎昼（夏）

借画像



8 緑濃し客待ち顔の麦藁帽

季語：麦藁帽（夏）

公園にアイスクャンディー売りでしょうか、暑い中屋台出していましたが、客の姿は見えませんでした。



9 白い山高シェフの印夏のキッチン

季語：夏（夏）

俳句



撮影：久芽

1 頭頂の白髪隠そか 夏帽子

季語：夏帽子（夏）

2 編み笠の舞い秘めやかに風の盆

季語：風の盆（秋）

「おわら風の盆」鼓弓の調べと鳥追笠の神秘的な踊りに心惹かれる。帽子を拡大解釈しました。

3 つば広の日除け帽子や身のちぢむ

季語：日除け（夏）

大きなつば帽子が好きなのですが、あちこちぶつかり迷惑をかけることがあります。

- 4 **ボロボロの麦わら帽子日やけ妻** 季語：麦藁帽子、日焼け（夏）
- 5 **夏帽子病隠して亡き娘笑む** 季語：夏帽子（夏）
- 6 **さよならも告げずに去りし夏帽子** 季語：夏帽子（夏）
- 7 **帽子とる顔の汗ふく熱い夏** 季語：汗、夏（夏）
- 8 **麦藁帽まぶかに被り日の匂い** 季語：麦藁帽（夏）
 麦藁帽子を深く被るとひさしから麦藁の香りが。
- 9 **飛ばされた帽子追う孫背に西日** 季語：西日（夏）
 大好きなキャラの帽子を風に飛ばされ半泣きで追う孫。こちらはその孫が車道に飛び出さないように追う。
- 10 **雨音に出番なきかな夏帽子** 季語：夏帽子（夏）
 雨の日が多かった7月。新しい帽子を被って出かける予定が・・・。

自由俳句

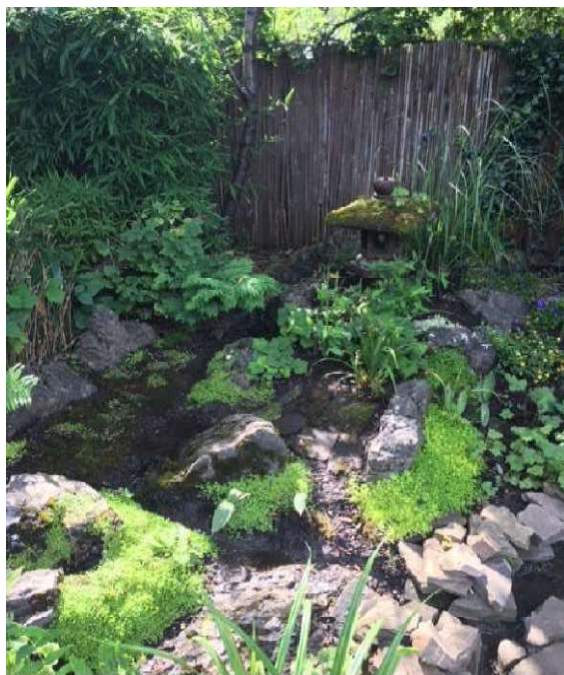
- おこ **首ウォーマー 耳付き帽子で めくい朝** 季語：めくい（春）
- 北切雀 **バス停に花栗ほとりまたほとり** 季語：花栗（夏）
 風の日、バスを待っていると細長い尾のような栗の花が、次々と落ちてきました。
- 新聞の見出し旧聞休暇明** 季語：休暇明（夏）
 留守中の新聞にざっと目を通す。漢字を並べて休みが終わった緊張感を出したつもりです。
- 陽閑 **ひまわりの笑顔なる朝吾も笑う** 季語：向日葵（夏）



友人宅坪庭で奥に檜風呂小屋と
 囲炉裏東屋あり、ロンドンとは
 思えないです。風呂障子から
 月眺め句作とは羨ましい限りです。

ロンドンの苔むす庭の晩夏光

季語：晩夏光（夏）



短歌

準坊 立て看板
「熊に注意」の山道に
シャンシャンと
鈴の音来たり

腰にクマ避けの鈴を付けたハイカーとすれ違いました。

北切雀 飲み干したグラスの氷かさなりて
コトリ 一言黙り込む夏

**川柳**

準坊 支持率をワクチン接種にすぎるスガ

断末魔？支持率が30%を切り始め。

北切雀 ロパクでZoom練習合唱団

コロナで練習はオンライン。気恥ずかしくて声が出せません。9月からやっとナマ練習が始まります。

好い数値出るまで計る血圧計

写真投稿

iSAMU



ホルトの木



青桐



稷萩（盆花）

令和3年7月「山」（出題：千泉）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

写真俳句 投票数：17

一席

夏山に今沈みゆく陽の赤き 千泉（10 票）

季語：夏の山、夏山（夏）



<< 友人の山の家の夕日はいつ見ても素晴らしいです。>>

- * 下五にとても合う写真ですね感動が伝わります。
- * 空全体が染まる夕焼。
- * きれいな夕日ですね。
- * 素晴らしい夕景。知人の家でこれを占有できるのはなんと贅沢なことでしょう。
- * 夏山の真っ赤な夕日素敵でしょうね！
- * 綺麗な写真、俳句にぴったりですね。
- * こんな景色が見える別荘なんて羨ましいこと！
2票投票します。

佳作（令和3年7月号掲載順）

夏山の頂き前に山下りる iSAMU

季語：夏の山、夏山（夏）

<< 甲斐駒ヶ岳の山頂を前に、体調が悪くて下山した思いが蘇った句です。オリンピックも中止の英断をすべきではないでしょうか？もし登山を続けていたらきっと遭難したと思います。>>



- * 兼題のイメージピッタリの写真。残念でしょうが賢明な判断でしたね。
- * 撤退も勇気がある。しかしこの絶景をしっかりと目に焼き付けて。
- * 若き頃上高地で自身経験しました。
- * 先日登山のテレビ番組を見ていたら、指導者の方がすぐそこに頂上が見える難所で、「降るときのことも考え登ってください。下りは体力も落ち、登ることより難しいこと肝に命じてください。」と話されていました。この句の詠み人の英断に拍手です。

肩に汗山頂の見えまた隠れ 一枝

季語：汗（夏）



<< 翌日は疲労困憊、筋肉痛で、年齢をを思い知らされたことでした。>>

- * なんだか意地悪されているような登山ですね。これができるウチが華？
- * 汗が目に入ると痛いですね、経験あります。
- * 山登りの後の心地よい疲労感はたまらないですね。
- * 登ったり下ったり 一步一步 歩くしか無いのですね。

豊の秋 感謝をこめてお山へと 昼寝覚

季語：豊の秋（秋）



<< 青森県津軽では毎年旧暦の8月1日に、五穀豊穰のお礼と祈願をこめて岩木山に集団登拝する行事、お山参詣が催されます。>>

- * 年のせいか、こういう行事には参加したくなります。
- * 自然へ感謝する人々の心ずっと残っていてほしいです。
大きなものに護られて生きていることを常に感じているのでしょうか。
- * 富士山に良く似たこの山にも山地信仰の歴史があるのですね。
- * コロナで中止となっている地域のお祭りが再開されるのが待ち遠しいです。
- * 珍しい行事ですね。今年はどうなったのでしょうか。

夏の山すぐやむ雨に大慌て 梵木

季語：夏の山、夏山（夏）



- * 完全装備でも濡れるのは嫌ですよ。
- * コミカルな句と、写真ではそんな状況も気にせず、か諦めか（？）
山道を楽しんでいるように見えて好感度大です。
- * 作者には気の毒だけど何かユーモアのある句です。

山清水喉潤してギアチェンジ 久芽

季語：山清水（夏）、清水（夏）の子季語

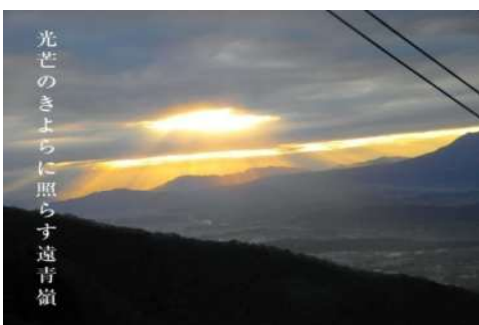


<< 登山道に美味しい山清水があり、ここで喉を潤してからひと頑張り。>>

- * 水の表現が素晴らしい写真に「ギアチェンジ」の着地が楽しい。
- * 山の清涼な水は最高に美味しいことでしょう。
- * 「ギアチェンジ」がよいですね。

光芒のきよらに照らす遠青嶺（あおね） 池福楼

季語：青嶺（夏）



- * 自然の現象には息を呑む美しさがありますね。
- * お山は仲様、といつのか素直に納得じさる句と句じり。
- * 我家からも時々同じ様な風景を見ますが句にするといいですね。
- * 神秘的な光の筋に照らされた霊峰ですね。



山はだか塗り絵のごとく色かさね 北切雀

季語：裸（夏）

<< 幼児の塗り絵のような山でした。米国ネバダ州にて。>>

- * 草木が生えていないのを、はだか、と夏の季語でうまく表現されていますね。
- * 本当に塗り絵のような岩山と蒼い空。シンプルな構図がいいですね。



夏山を映す流れに手を浸す 準坊

季語：夏の山、夏山（夏）

<< 暑き日は冷たい川の流れに思わず手を入れてみたくなりますね。>>

- * 水の綺麗さを感じます。写真と匂いいいですね。
- * カレンダー写真ですね。
- * 山影を映す鏡のような川。静寂の中遠く鳥のさえずりが聞こえてきそう。

俳句



写真俳句：千泉

歴史見し 火の山やさし夏の色

季語：夏の色（夏）

<< 関門海峡門司港側から見た下関の「火の山」。瀬戸内海国立公園の一部に入ってます。>>

俳句 投票数：16

一席

見知らぬもあいさつ交わす登山道 池福楼（6票）

季語：登山（夏）

<< すれ違う人の「こんにちは」の声に疲れも和らいで。>>

- * 挨拶を交わすのは気持ちのいいものです。足取りも軽くなります。
- * 初めて山歩きした時、私もびっくりしましたがいい習慣ですよ。一步一步苦労しながらの道のりも自分達だけじゃなくて、みんな頑張ってるんだって思えて元気がでます。
- * 挨拶すると、歩き疲れていても元気が出ますよね。
- * 山では必ず挨拶しますね。
- * 経験あり。山の中では人に会うと仲間感が湧く。

機窓には山滴りて里帰り 北切雀（6票）

季語：山滴る（夏）

<< 里帰りの機窓からみた日本の山々。美しさに感動しました。>>

- * 機窓から眺める山々には郷愁と安堵を感じますね。
- * 飛行機から眺める山々、地上から眺めるのと違い感激しますね。

- * 青々とした夏山を指すこの季語は美しい。上空からなら更に。
- * 日本の山は、山滴るという表現がぴったりです。
- * 本州の中央を重なり合うように南北に走る美しい峰々。長旅の疲れを忘れ窓に額をつけ「日本だ！」と感じる一瞬ですね。
- * 山滴るって素敵な季語だけど、上五の助詞が引っかかる。いっそのこと「里帰り機窓の山の滴りぬ」とかは？

作者：実はご指摘のように上五に悩みました。季語が下五に来ればその印象が残り「季語を立てる」結果になりますね。ありがとうございました。

佳作（令和3年7月号掲載順）

ここからが胸突き八丁夏の山 昼寝覚

季語：夏の山（夏）

<< どの山も9合目ぐらいから山頂までが急峻な登りとなっているようです。>>

- * 頂上を眺めもう一息と気合を入れて。
- * 頂上を極めた時の気分を楽しみに、あと一息。
- * 山登りはしませんが、よくわかります。
- * 山頂まで後少しがいちばんきつい。
- * 胸突きはわかるのだけど八丁とは？

作者回答：

「胸突き八丁」という言葉、一つの成句で「胸突き」と「八丁」を分けて理解するものではないと思います。「八丁」だけだと、辞書によれば1丁の8倍の長さ、とか八つの道具を使うこと、との意味があるようです。「胸突き八丁」とは辞書によれば「富士登山出頂上までの8丁（約872m）の険しい道、転じて急斜面の長い坂道」あるいは「物事を成し遂げる過程で一番苦しい正念場」とあります。ここでは「急斜面の長い坂道」の意味で使っています。

夜涼みや遠く連なる山暗し 千泉

季語：夜涼み（夏）

<< それほど遠く無い我家から見える山々を詠みました。>>

- * 山のシルエットを眺めながら涼をとる風景。
- * 暗い山の稜線に続く空の濃淡が想像できる。

山見えぬロンドンのビル間初日出ずる マム

季語：初日（新年）

- * 山なしイングランド、ロンドンのご来光はビルの谷間から。やはり手を合わせてしまいますね。
- * イギリスでは高山が少ないのでしょうか？
- * ビルの山の谷間から見える初日の出。どこから眺めても初日の出は心新たにされる一年の始まりですね。

キャンプ張りカレーの匂い山登る 準坊

季語：キャンプ（夏）

<< キャンプで食べるカレーは逸品です。>>

- * 野外のカレー、たまらない香りですね。
- * 本当に最強のカレー、疲れていても絶対食欲がわいてくる、その匂いが山を登っていくというのが面白い。どこまで匂っていくのでしょうか、頂上まで行ったらスゴイけど、あるかもですね。
- * カレーはキャンプの定番食、身体中に沁み渡った匂いと共に登山。
- * 「うわ、美味しそう！」と思わせてしまう最強の匂い。ついカレーを作ってしまった。
- * 山で味わうカレーやコーヒーなど日常の味が非日常に取り込まれる。

稲妻に白き岩肌武甲山 久芽

季語：稲妻（秋）

<< 武甲山は石灰岩で出来た山。セメント会社は何社か入っていて掘削しています。稲妻で白き岩肌が見えました。>>

- * 動的でドラマチックな句。せつなを切り取った力量はたいしたもの。
- * 開発の波に、自然を守ってほしいとも思う。

砂山の砂サンダルを脱いでみる 一枝

季語：サンダル（夏）

- * 心地よい「さ行」の韻を踏んで解放感を詠んでいます。
- * 熱い砂の上を裸足で歩くこれも季節を感じる。

山の木々夕立受けて生き返る 梵木

季語：夕立（夏）

- * 猛暑にうなだれるのは人間ばかりではありません。
- * 日中の酷暑から生き返る慈雨ですね。

雷雲に冷汗かきて尾根歩き 陽閑

季語：雷雲（夏）

- * 怖い。
- * 怖さが伝わります。
- * これは非常事態です。早く安全な場所に避難しなければ。
- * 尾根を歩いている時の雷雲、さぞ怖いでしょうね。

自由俳句

陽閑 雨雫ビロードの葉を転ぶ夏

季語：夏（夏）

<< 葉先に雫が下り光輝いていました。この葉何でしょうか？ご存知の方教えてください。>>



- * 詩的な写真。自然の最高のシャンデリアですねえ。残念ながら私も名前はわかりません。
- * 美しい水滴が「転ぶ」という表現は動きを捉えて良い表現です。

短歌

準坊
ちらちらと
行きつ戻りつ窓際を
覗き見るよに
舞う紋白蝶

<< 最近色々な蝶が遊びに来ます。>>



- * 蝶々は身近な人の化身とも言います。逢いにきたのかも知れません。

北切雀 飛ぶがごと泳ぐかのごとふらここの孫の和毛（にこげ）の輝き揺るる

<< 箱型の幼児ブランコに座り、高く高く揺らしてもらうのが大好きな孫です。>>

作者：今更の訂正ですが、孫娘なので七月号の「吾子」を「孫」に差し替えました。

- * お孫さんへの愛情が隅々まで感じられる歌。「にこげ」という耳慣れない言葉も勉強になります。

- * 長月9月の兼題は昼寝覚さんから「野分または嵐」、神無月10月は梵木さんから「島」、11月霜月はママさんから「コーヒー、珈琲」と出ています。
 - * 令和3年文月7月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
 - * また特にいいと思われた写俳、俳句各1作品に持ち票2票ずつを投票されても結構です。
 - * 句とは別に写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
 - * 作者名が入った作品は投票対象外です。
 - * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。写真、短歌、川柳、自由俳句も大歓迎です。
 - * 8月号への投票、9月号作品への投句、投稿の締め切りはともに9月20日です。
 - * 読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。
- * 今年から「この写真で一句」という3ヵ月毎の部門を始めました。兼題は言葉ではなく写真です。
1. 兼題写真から自由に発想して「俳句」を詠んで下さい。
 2. 川柳、短歌と同様に投稿は自由です。
 3. 作品は記名で投票の対象外となります。
 4. 7月～9月の兼題写真は久芽さんの「道標」で、締め切りは9月20日です。



道標

撮影：久芽

写楽句会 連絡先： kinuko_thompson@hotmail.com
 写楽句会： <https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>
 四季の森空間： <https://isamusouma.web.fc2.com/>

© 2021 Sharakukai